

やまちゅうスクエア

吹田市立山田中学校 学校だより 令和5年度 第8号

「3つの配慮」

校長 小早川 靖樹

先月、地域にお住まいの方からお手紙をいただきました。

先日、そう木枯らし1号の吹いた直後の寒い朝のことでした。その日は燃焼ゴミを出す日で、私はバイクの前にゴミ袋を積んでゴミ庫の横まで運び、バイクを止めゴミ袋をおろしました。そこへ、登校途中の貴校の生徒さん三人が通りかかり、その中の一人が黙ってその袋を持ちゴミ庫へ捨ててに行ってくれました。私は呆気にとられ、ゴミ庫から出てくるその少年に「ありがとう」と声をかけましたが、彼はちょっと微笑んで去っていきました。

この手紙を読んで、私は3つの配慮の話を思い出しました。一つめは、「目配り」です。「目配り」とは、いろいろなところに注意を行き届かせること、つまり周囲の様子をよく観察し、状況に応じて配慮することをいいます。たとえば、授業中に、「肩をすくめ、両腕をさするようなくさ」をしたときに、「すきま風が入って寒いのではないか。」と気づき、空いている窓を閉めるなどをするようなことです。

二つめは、「気配り」です。「気配り」とは、自分の立場から見て、相手が求めていることを想像して、行動を先回りすることをいいます。たとえば、相手が何度もくしゃみをしていたら、風邪を引いてるのかもしれない。そのようなときはティッシュを渡したり、保健室へ行くよう促したりすることがそれにあたります。

三つめは、「心配り」です。「心配り」と「気配り」はよく似ていますが、視点が違います。相手の立場になって考えて行動することが、「心配り」です。「気配り」は、自分の立ち場で考えて行動しますが、「心配り」は、相手を思い、何をしてあげたら喜ぶのかなど、相手の心に寄り添い行動することです。タイミングよく気の利いた一言をかけると、相手は愛情や優しさを感じてくれるでしょう。

「目配り」・「気配り」・「心配り」は、どれも欠かせない人間関係の要素です。優しい人になるためには、それぞれをバランスよく心がけていくことが大切ではないでしょうか。（これが一番難しいクエストですけどね・・・）

先程の手紙には続きがあります。

私が「ありがとう」と声をかけた時、その生徒さんが見せた中学生の男の子らしい照れ笑いがとても爽やかだったのです。その日一日、私は何とも言えぬ良い気分でも過ごせました。まるでその日の昼間が小春日和に変わったように・・・

勇気を出して行動したことが人を幸せにすることがあります。優しい言葉・行動が溢れている、そんな山田中学校をみんなで作っていきませんか。

☆後期生徒総会

11月15日に後期生徒総会を行いました。立会演説会と同様、オンラインでの実施となり、前期の活動報告と後期の活動方針ならびに計画が報告されました。3年生を中心とした前期各委員会の報告後の安堵の様子と、それを受けた2年生を中心とした後期各委員会の会長・委員長の緊張する様子、会場の左右の列での雰囲気の違いが印象的でした。

後期の各委員会の皆さん、「私たちの学校」という気持ちを大切に、活発な生徒会活動となるよう、期待しています。



☆学校教育自己診断

昨年度までは、生徒・保護者ともにマークシートによる回答をお願いしていましたが、今年度から Microsoft Forms を用いて実施しています。2・3年生が12月1日に各教室で実施し、1年生は12月6日に実施予定です。保護者の皆様には、12月8日までの回答をお願いしておりますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

なお、集計作業が軽減されることにより、例年よりも結果の報告時期を早められる予定です。結果につきましては、改めて文書にてお知らせいたします。

